

菓子屋横丁から仲町方面なまちように向かって寺町通りを歩いていると、養寿院があります。その山門の屋根を見ると、隅に何か乗っているのが見えました。

近くで見ると、波の形をしています。この正体は、「留蓋とめふた」という物。屋根の軒近くにある、雨漏りを防ぐための瓦です。



波形の留蓋は、水にまつわる物なので、防火のために置かれた、という説があるそうです。写真を見ると、波のしぶきまで細かく表現されています。暑い季節に、涼しさを運んでくれるアートをみつけることができました。



写真右=養寿院の山門。屋根の四隅を見てみると写真中・左=山門の正面向かって左と右にある留蓋。形が少し異なっています



どんぐり

編集後記

高校を卒業して10年以上たった今でも、インターハイということばを聞くと胸が躍ります。高校時代にあこがれた大会でしたが、出場はできませんでした。その思いがあるから、今でもわくわくするのかもしれません▶「彩夏到来08埼玉総体」が開催され、川越は弓道と女子バレーボールの会場となりました。取材中、試合の緊張感や興奮が感じられる写真を撮りました。この大会の様子は、8月25日発行の広報川越でお知らせします(TO)



表紙の地図



ツルレイシ



ツルレイシは、ゴーヤーやニガウリの名でも親しまれている、ウリ科の一年生つる植物です。

写真は、北部地域ふれあいセンターに植えられているツルレイシ。エアコンなどの使用を抑え、ヒートアイランド現象の緩和などを目指した、緑のカーテン事業の一環として、植えられています。建物の前面にネットを張り、キュウリやスイカなどと共にそのネットを伝って上へと伸びこぼし、カーテンの役目を果たしています。カーテンの内側で涼んでいます、表面に凸凹がある実がなっていました。